

「全鍍連」 2020年9月号 巻頭言

全鍍連 情報・国際担当副会長 山崎 慎介(東新工業(株) 代表取締役社長)

「青年部諸君！」



私の友人に150床の入院設備を持つ中堅病院を経営していた医師が居ました。彼の父親は雪深い地方から苦学をして医師となり、大学病院の勤務医を経て彼のお母さんと二人で、東京で〇〇医院と言う自分の苗字の開業医から、〇〇病院と言う地域の名前を付けた中堅病院を一代で築いた立派なお医者さんでした。私の友人はというと、親のコネで三流医大に入学し、医師国家試験も7回も落ちたが見事に8回目で合格し、30歳を過ぎ晴れて医師となり、どの病院で実績を積むこともなく、腕も経験も未熟のままお父さんの病院に副院長として入職、地域では有数の病院の、見た目も肩書も立派な副院長さんとなりました。そんな彼は、数年後に何故か医学博士の学位まで買って？もらっていました。

勿論、お父さんはお金持ちのお医者さん、彼は医学生の時より高級車を乗り回し、当時流行りのデザイナーブランドを身にまとい、ゴルフ、テニス、スキー、ヨットの腕はプロ並み、夜な夜な六本木や赤坂のディスコに繰り出し、女の子にもモテモテ、遊びの達人で我々の羨望的でした。が！20年程前に父親が倒れ、実感を握った彼は保養所と言う名の病院の経費で、院長家族用の温泉付き別荘を熱海に持つ、学会用と称した院長用のマンションを都心に持つ、休みとは言っても入院患者を抱える病院に休みはないはずなのですが、福利厚生と称して、休みは専業主婦ながら役員にしている奥さんや家族、取り巻きを連れて海外で長期休暇、誰もが羨む病院経営のエリート医師の生活を満喫しておりました。

しかし、その頃より、古参の口煩い婦長さんの引退、経費の使い方に煩い事務長さんとも反りが合わず解雇、診療報酬制度が変わり、入院の長期化も出来なくなり、法律が悪い、厚労省が悪い、コンプライアンスも厳しくなる、患者はろくでもない年寄りばかりで儲からない、と愚痴が多くなっていましたし、綺麗な病院じゃないと患者も来ない時代、お父さんの作ってくれた病院は昔の建物で天井も低く、老朽化も激しく、建て替えようにも、肝心の凄腕の事務長さんはもはやいない。そんな院長に銀行は借入れに良い顔をせず、気が付けば周りはいエスマンだらけの裸の王様、病院は火の車で借金塗れ、最新の検査機器も入れられず、そんな状態だから腕の良い医師を採用しても逃げられる、そしてこのコロナ禍でついに息の止まる日が・・・、そんな中でも、まだ彼も患者さんもラッキーだったのは、大手の医療法人に借金を肩代わりしてもらい、病院は身売り、今はお父さんの残してくれた財産で暮らしているようです。

へえ～、やっぱりお前の友達、馬鹿な奴も世の中に居るものだ、と思っているそこの貴方！これはフィクションではなくノンフィクションで私の友人の話です。メッキ屋の二代目、三代目の皆さん、どれかひとつや二つは皆さんに当てはまっています。

せんか？私の周りにもそんなメッキ屋の息子が（汗）かく言う私も父が創業してくれた二代目のボンボン社長ですが、今やメッキ業界は創業社長はおらず、二代目、三代目のボンボンばかり、ゴルフは上手い、飲み屋では顔、英語は喋れる、学歴は高い、苦勞を知らないe t c、私も含め、皆さんの代は持ち堪えても、この先の貴方の息子さん、娘さんの代は大丈夫ですか？今やメッキ業界は減少の一途を辿り、この先、減ることはあっても増えることはあり得ません。自戒の念を込めて、若い皆さん！親が生きている今なら間に合います。若いときの苦勞は買ってもです。勉強しましょう！私と同世代の親御さんの皆さん！今からでも遅くはありません。可愛い子には旅をさせろです！「創業は易し、守成は難し」これ以上、メッキ業界から会社を減らさないように頑張りましょう。